クリティカル・エコシステム・パートナーシップ基金（CEPF）

１．概要

コンサベーション・インターナショナル（CI）、世界銀行（WB）、GEF、マッカーサー財団及び日本政府による共同基金で、開発途上国のホットスポット（生物多様性が豊かでありながら絶滅危惧種が数多く生息し、危機に瀕している生態系）で保全活動を行う民間団体へ助成を行うもの。

２．目的

○　生物多様性が豊かでありながら絶滅危惧種が数多く生息し、危機に瀕している生態系「ホットスポット」における地域の保全活動を支援する。

○　地域の重要生態系保全の取組みにより、そこから得られる自然の恵みを通じて、経済的にも持続可能な発展が可能となることを期待。

３．経過

○　２０００年８月　CI、WB、GEF が CEPF を共同で設立

○　２００１年８月　同基金に米国の民間財団であるマッカーサー財団が参加

○　２００２年６月　WSSD 最終準備会合の機会に、日本政府が同基金への参加を発表。

４．内容

○　開発途上国のホットスポットで保全活動を行う民間団体へ助成を行う。

○　各団体は、毎年５百万ドル、５年間で２千５百万ドルずつの拠出を約束。その他からの拠出も募り、民間団体に対して総計１億５百万ドルの支援を行うことが目標。